

県営ほ場整備事業「大串裏田地区」の工事着手

大串裏田地区は、比企郡吉見町の南部に位置する水田地帯です。地区内のほ場は昭和中期に10a区画に整備されていますが、大型機械の導入など現在の営農に対応するためには、区画は小さく、耕作道は狭小であり、農地集積の推進や、経営の大規模化が進めにくい状況となっています。

本事業は、このような現状にある28.7haの農地を対象として、区画拡大、耕作道の拡幅、用排水路の整備を一体的に行い、今後、農地中間管理機構を通じた担い手への集積・集約化を促進し、生産コストの低減、高収益作物の作付け拡大、耕作者の収益性の向上を図ることとして、令和4年度に事業開始となりました。

令和5年度は、農地の区画拡大(5.8ha)と併せて、大型機械がすれ違うことができる幅員へ耕作道路を拡幅し、土水路をコンクリート水路に整備します。引き続き、地元の農家の方々と調整を図りながら、令和8年度の事業完了へ向けて計画的に整備を進めていきます。



ほ場の整備前の状況



ほ場の整備中の状況



用排水路の整備中の状況

農業用排水施設の長寿命化対策について

管内には100ha以上の農地を受益とする基幹的農業水利施設が50施設あります。これらの施設の中には老朽化が進行し、更新や補修を必要とする時期を迎えるものが増加しています。

そのような中で、県ではこれらの施設について、各施設の管理者が毎年度実施している施設評価に基づいた計画的な補修・更新計画の策定を行っています。

令和6年度からは、新規調査地区として「東第二地区(吉見町)」の調査が始まる見込みです。地域を洪水から守る重要なインフラ施設となっているものの、近年では電気設備やポンプ施設の経年劣化、耐用年数超過により機能不全に陥るおそれがあることから、調査を行い計画的に保全対策を実施し、施設の長寿命化を図っていきます。



排水ポンプ(口径1200mm)

東松山農林振興センターの主な業務

管理部

- ・生産振興対策
- ・農産物の安全安心対策
- ・農地中間管理事業の推進
- ・農地の転用許可事務 等

TEL 0493-23-8532 (地域支援担当)
0493-23-8517 (農地担当)

農業支援部

- ・新規就農の支援
- ・農業法人化の支援
- ・農業の6次産業化の推進
- ・農産物の栽培技術支援 等

TEL 0493-23-8582

農村整備部

- ・土地改良区運営指導
- ・多面的機能支援事業
- ・ため池の防災減災対策
- ・県営農業農村整備事業 等

TEL 0493-23-8586 (整備支援・管理担当)
0493-23-8583 (県営・ため池担当)

元気アップ農林業

～東松山農林振興センターだより～



埼玉県マスコット
「コバトン&さいたまっち」

令和6年3月1日発行 第59号

発行 埼玉県東松山農林振興センター
〒355-0024 東松山市六軒町5-1
TEL 0493(23)8532 FAX 0493(22)1599
▼ホームページ
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0903/index.html>

彩の国 埼玉県 東松山農林 検索



大豆の安定生産に向けて播種技術の実証を行いました

大豆栽培においては湿害対策が大きな課題です。当センター管内でも、播種期が梅雨と重なることで土壌が過湿になり、播種の遅延や出芽不良による生育量の不足が課題となっていました。令和4年7月11日の大雨では管内の大豆ほ場も大きな被害を受けました。

そこで、鳩山町において、令和5年度全国農業システム化研究会の現地実証調査の一環として、梅雨の合間をぬって播種できる湿害に強い技術として、「部分浅耕一工程播種」と「高速畝立て播種」の2つの播種技術の実証に取り組みました。

「部分浅耕一工程播種」は、播種爪の一部を短いカルチ爪に交換することで、普通どおりに深く耕起する部分と浅く耕起する部分を作り、浅く耕起したところの未耕起部分に接するように播種する技術です。この技術は降雨・干ばつの両方に対応できる播種技術として注目されています。「高速畝立て播種」は、畦を作ってその上に播種することで、降雨時に湿害を回避する技術です。専用の播種機を使い、時速5～6kmで作業ができるので、梅雨の合間の短い晴れ間に作業が可能です。

大豆播種時および生育期間中に開催した現地検討会には、管内生産者、市町村、JA、農機メーカー等関係者が多数参加し、播種作業や生育状況を熱心に見学していました。

今年は大豆播種後から高温乾燥が続く、乾燥の影響を受けやすい高速畝立て播種区では生育停滞が懸念されましたが、出芽期の干ばつ時に畝間かん水することで出芽率が8割程度と良くなり、初期生育も確保されました。畝立てをしたことで平畝に比べほ場全体に水が行きわたりやすく、実証した農業法人からは「かん水により生育が確保できること、組合員にかん水方法を示すことができ良かった」との感想が聞かれました。

当センターではこれからも地域に適した大豆の安定栽培技術の定着化を目指し支援を続けていきます。



高速畝立て播種の様子



現地検討会の様子

注意!!

当農林振興センター管内で、農機具の盗難が多く発生しています。
農機具の盗難に十分ご注意ください！納屋には鍵をかける！